

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム古都の森

## 目標達成計画

作成日：平成22年2月22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	10	御家族からの要望等を引き出し、運営努力をしているという評価は頂いているが、実働では規定人員を満たしているとはいえ、手薄な分難な面が見られている。気づかれた時は、4人で9人を見ている時間帯であったりするので、無理が言えないという環境にある。	人員配置の安定(最低でも2人以上)と少人数であっても、その都度の援助は落ち着いて丁寧にその人と向き合っていく。	・安定するまでは他ユニットとの連携協力体制を密に行う。 ・お互いに声を掛け合いながら(注意し合いながら)その人と関わっていく。 3ヶ月
2	20	職員が短期間で変わることがあり、親しく慣れる間が無い。	人員配置の安定と、変更があっても初めましてから始まる挨拶とコミュニケーションを取ることを職員から積極的にに行う。	・御家族からの要望を聞くだけでなく、職員からの具体的な提案等を出していく。 ・日常的な連絡は重複しても良いので、度々行う。 ・待ち受けにならない様に常に、職員から取り組む。 3ヶ月
3	26・49	戸外に出かけられるような支援は努めているが、日常的な部分で気分転換の頻度としては少ない。	外出の目的には気分転換を図ることが含まれています。個別の生活リズムに合わせた散歩等の単発の支援を頻回に行う。	・まずは散歩のバリエーションを増やす。 ・ユニット間、隣接施設等の活用を増やし、全職員が入れ替りの対応をしていく。 ・3分、5分、10分アプローチの実施。 3ヶ月
4	40	利用者様同志の関わりや職員間との日常の馴染みの部分では、関係作りが安定していない為、容易に同席しての食事等が行えず(人が気になったり、会話に不穏を引き出すことになったり)楽しみに欠ける。	どの利用者の方と職員が同席しても不穏なく、会話を交えながら食事が出来る。	・個別の生活リズムの見直しと整備。 ・その為の利用者との関わりを増やすことで(手段として、日常的な気分転換支援を活用)情報収集と交換を行い、支援の仕方を話し合い実施していく。 3~6ヶ月
5				ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。